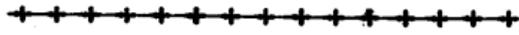
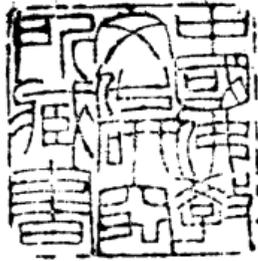


大新 正修 大藏經索引



第四十八冊

古 逸 部  
疑 似 部



新文豐出版公司 影印

國立中央圖書館出版品預行編目資料

大正新修大藏經索引／立正大學等著．——一版

——臺北市：新文豐，民81

冊；公分

ISBN 957-17-0447-4（一套：精裝）

1.藏經—索引

221.08

80004863

大正新修大藏經索引 全48冊

中華民國81年4月台1版

精48冊基價725.0元

編集者：大藏經學術用語研究會

發行者：高本釗

發行及印刷所：新文豐出版公司

公司：臺北市雙園街96號

電話：3060757·3088624

門市部：臺北市羅斯福路一段20號8樓

電話：3415293·3415294

台北郵政3643信箱

登記證：局版臺業字第0649號

郵政劃撥：01004426號

ISBN 957-17-0447-4（套）

## 出版說明

本「大正藏續編索引」第三二至四八冊係根據大正新修大藏經續編第五六至八五冊所作諸內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學——立正、大谷、大正、龍谷、駒澤、高野山等負責編撰本索引，深獲各界好評，特此推介學林，以公諸讀者。

凡其五五冊正編部份所作三一冊索引，業於民國六十九年景印刊行，屢經讀者多方詢問：何時得以全部出齊，以利學者應用；經數年來考核評量，並得鄰國日本諒解，為使此國際性工具書，俾以完整面目提供學者使用，特此全數景印，有了這部索引，任何問題都可以迎刃而解，可知此部索引存在價值是何等珍貴，謹此說明。

本公司編輯部 謹啟壬申年元月

# 簡介研讀大藏經的工具書

楊白衣

## ～法寶總目錄與大藏經索引之功用～

研讀大藏經是每一位佛子嚮往的終身大事，不研究則已，若想研究，則非賴特殊工具書莫辦。過去研究佛學，一、靠辭典，二、靠年表，三、靠經書目錄，但這些工具書已無法收到事半功倍之效，勢必另覓他途解決。

日本學者對此提供了最有力的工具書二種，其嘉惠學界之深，誠令吾人嘆為觀止！此二種工具書，一曰『法寶總目錄』，一曰『大藏經索引』。案此二部書之主要功用如下：

### 一、法寶總目錄之功用可查下列事項：

- (一)知著者而不知其著作。
- (二)知經書而不知著者、譯者。
- (三)知經書而不知有無異譯本。
- (四)知經書而不知何代、何年、何人之著譯。
- (五)知經書而不知內容章節。
- (六)知經書而不知在何處（第幾冊、幾頁）
- (七)知經書而不知有無前人之註解。
- (八)查著譯者之籍貫、俗姓、生卒年。
- (九)查經書之原名、漢譯名、日譯名。
- (十)查經書在各種版本之歸屬。

### 二、大藏經索引之功用有下列事項：

- (一)查法相、名數之所在以及定義等。
- (二)查人名、地名等所有固有名詞之原名，出現次數以及同名異人。
- (三)查某一術語在某一部經書中之用例、定義、異名及在各宗派中之觀點。
- (四)查五十種分類項目（詳如下表）之所在以及佛教的人生觀、宇宙觀。
- (五)查典籍之解題以及在國際上現今的研究成果。
- (六)查每冊藏經之詳細內容以及佛教之觀點。

『法寶總目錄』共三巨冊，除檢查上述各種要目之外兼有經錄的性質，不但收錄了各版本藏經，如『明藏』、『卍藏』、『卍續藏』等目錄，以及名庫所藏之書目，且有智旭大師的『閱藏知津』與陳實的『大藏一覽集』，可查每一部經律論（一七七三部）之解題、音義、傳記、疏鈔、目錄、纂集、護教、序讚、詩歌等，極為方便。

『大藏經索引』是根據日本『大正新修大藏經』（中華文化會館及新文豐出版公司影印之大藏經）前五十五冊所作之內容索引，這是日本大藏經學術研究會邀請六所佛教大學負責編撰的索引。其索引之計劃工作本以名學者小野玄妙博士（佛書解說大辭典作者）為中心，從民國三十二年開始著手，並已刊行了阿含部、目錄部、法華部各乙冊。這個計劃後來由於博士之逝世和第二次世界大戰之影響而不得不告中斷。直到民國四十五年由大谷大學，高野山大學，駒澤大學、大正大學、立正大學、龍谷大學等六所佛教大學重新提議，計劃把『大正新修大藏經』中之印度、中國、日本等三國選述之部分共計八十五冊之內容作成索引四十八冊以利學者應用。這六所佛教大學合議之結果，組成大藏經學術用語研究會，對內容的分類項目先行檢討後，決定以下列的原則展開工作。

一、以小野玄妙博士之計劃為藍本，分為分類項目別索引、音次索引、字劃索引、四角號碼索引、梵語索引、使其成為國際性之工具書。

二、用語之選擇，以漢譯大藏經為準，以總合研究之方法，每頁選出五十個學術用語，而把它配於五十種分類項目。五十種分類項目，以印度撰述部分為中心，而每項目之下再細分若干細目，其詳目如下：

1. 教 說：經典分類名目（三藏、九分教、十二分教等）……a通說 b三藏 c九分教 d十二分教
2. 教 判：有關大乘小乘，一乘三乘，密宗及各宗判教之用語……a通說 b大小乘 c一三乘 d各說
3. 教 理：表示教理之用語如三法印、空、中、緣起、佛性、如來藏等……a通說 b各說
4. 法 相：有關構成宇宙萬象的現象與本體之用語，與五位諸法有關連的名稱……a通說 b色法 c心法 d非色非心法
5. 感 業：有關說明輪迴的感障，業道之用語（除緣起、因果）……a通說 b惑 c業 d苦
6. 行 位：表示修行道位及得果的有關斷惑證理之用語……a通說 b凡夫位 c聲聞緣覺位 d菩薩位

- 7.戒律：有關戒律之種類、細目、持犯等之用語……a通說 b各說
- 8.禪觀：有關一般禪定、三昧、觀法之用語……a通說 b禪定 c觀法
- 9.世界：有關三界、六道等之用語……a通說（包括三界六道，二十五有）b天 c大 d地獄 e餓鬼 f畜生 g阿修羅 h其他
- 10.佛：有關佛的德性、身土、佛名、諸尊之用語……a通說 b德性 c佛身 d佛土 e佛名 f諸尊
- 11.人名：按照身分分類之固有名詞……a比丘比丘尼 b優婆塞優婆夷 c仙人 d外道 e菩薩 f其他
- 12.教派：有關學派、宗派之用語……a學派 b宗派
- 13.教團：有關僧伽、教團之法規及僧階之用語……a通說 b法規 c僧階 d其他
- 14.寺院：有關寺院之用語……a通說 b各說
- 15.信仰：有關各種信仰之用語……a通說 b各種信仰（包括稱名唱題等）
- 16.儀禮：有關佛事及僧眾等一般儀式、作法之用語……a通說 b佛事 c作法 d僧眾行儀
- 17.事相：有關密宗四度加行、灌頂行法之用語……a通說 b行法 c四度加行 d護摩 e灌頂 f其他
- 18.曼荼羅：有關密宗行法修行之本尊曼荼羅之用語……a通說 b各說
- 19.印契：有關密宗於行法時結印契（手印）之用語……a通說 b各說
- 20.陀羅尼：有關陀羅尼之用語……a通說 b真言（純密） c其他
- 21.外教：有關婆羅門教，印度諸學派、儒教、道教、神道之用語……a通說 b婆羅門 c印度諸學派 d儒教 e道教 f神道 g其他
- 22.咒術：有關幻化、咒術之用語……a通說 b幻化 c咒術
- 23.天文曆數：有關天文、時節、方位、算數、度量衡之用語……a通說 b日月星宿 c氣象 d時分 e歲月 f宿曜曆及吉凶日 g方位 h算數 i度量衡
- 24.地理：有關地理、地名之用語……a通說 b地名 c山名 d水名 e園林名
- 25.動物：有關動物之用語……a通說 b各說
- 26.植物：有關植物之用語……a通說 b各說
- 27.鑛物：有關鑛物之用語……a通說 b各說
- 28.物理：認為與物理，化學有關之用語……a通說 b色 c形狀 d聲音 e光熱
- 29.論理：有關因明，論理學之用語……a因明 b論理。

- 30.心理：認爲與心理學有關之用語
- 31.倫理：有關倫理、道德之用語（例如恩義等）
- 32.教育：有關教育之用語。
- 33.生理衛生：有關生理與衛生之用語……a通說 b身體 c出生 d生理 e衛生
- 34.醫術藥學：有關醫術、藥學之用語……a通說 b療法 c病名 d藥
- 35.民族：有關民族、種族之用語……a民族 b種族 c其他
- 36.社會：有關家族、身分、階級等之用語……a通說 b家族 c身分 d階級 e其他
- 37.政治經濟：有關政治、法制、軍事、經濟之用語……a通說 b行政 c法律 d財政 e軍事
- 38.產業：有關一般職業之用語……a通說 b職業
- 39.風習：有關飲食、衣服、風俗之用語……a通說 b食物 c調味料 d飲料 e衣服 f裁縫 g風俗 h娛樂
- 40.言語：有關語言之種類、文字、文法、翻譯之用語以及梵語，巴利語等之音譯名詞……a通說 b種類 c文字 d文法 e翻譯 f音譯名詞 g其他
- 41.名數：以數目合成之用語
- 42.典籍：有關一般典籍之用語（包括品名）
- 43.紀年：有關年號、干支、王朝等之用語
- 44.文藝：譬喻、因緣、詩頌等與文藝有關之用語……a通說 b本生 c因緣 d譬喻 e文疏 f詩偈
- 45.音樂：有關音樂之用語……a通說 b音聲律呂 c調子 d聲譜 e典目 f樂器。
- 46.建築：有關建築之用語……a通說 b種類 c規模 d技法 e堂舍
- 47.圖像：有關佛、菩薩等的繪畫、彫刻之用語……a通說 b繪畫 c彫刻
- 48.工藝：有關美術工藝之用語……a通說 b題目 c形像 d素材 e技巧
- 49.器物：有關器具、佛具之用語……a通說 b佛具 c器具
- 50.雜語：不屬於上述四十九項目之詞彙

六家大學的分擔情形，到目前爲止已出版者如下：

甲、印度撰述部

索引第一冊	阿含部	駒澤大學	大正藏第一、二冊
索引第二冊	本緣部	高野山大學	大正藏第三、四冊
索引第三冊	般若部	大正大學	大正藏第五～八冊

索引第四册	法華涅槃部	龍谷大學	大正藏第九、第一二册
索引第五册	華嚴部	龍谷大學	大正藏第九、一〇册
索引第六册	寶積部	大谷大學	大正藏第一一、一二册
索引第七册	大集部	龍谷大學	大正藏第一三册
索引第八册	經集部(上)	駒澤大學	大正藏第一四、一五册
索引第九册	經集部(下)	大谷大學	大正藏第一六、一七册
索引第一〇册	密教部(上)	高野山大學	大正藏第一八、一九册
索引第一一册	密教部(下)	大正大學	大正藏第二〇、二一册
索引第一二册	律部(上下)	駒澤大學	大正藏第二二~二四册
索引第一三册	釋經論部中觀部	駒澤大學	大正藏第二五、二六、三〇册
索引第一四册	毘曇部(上)	立正大學	大正藏第二六~二八册
索引第一五册	毘曇部(中)	龍谷大學	大正藏第二六~二八册
索引第一六册	毘曇部(下)	大谷大學	大正藏第二九册
索引第一七册	瑜伽部(上下)	立正大學	大正藏第三〇、三一册
索引第一八册	論集部	龍谷大學	大正藏第三二册
乙、中國選述部			
索引第一九册	經疏部(一)	大正大學	大正藏第三三、三四册
索引第二〇册	經疏部(二)	大谷大學	大正藏第三五、三六册
索引第二一册	經疏部(三)	龍谷大學	大正藏第三七、三八册
索引第二二册	經疏部(四)	高野山大學	大正藏第三八、三九册
索引第二三册	律疏部論疏部(一)	龍谷大學	大正藏第四〇、四一册
索引第二四册	論疏部(二)	大谷大學	大正藏第四二~四四册
索引第二五册	諸宗部(一)	立正大學	大正藏第四四、四五册
索引第二六册	諸宗部(二)	大正大學	大正藏第四六、四七册
索引第二七册	諸宗部(三)	駒澤大學	大正藏第四七、四八册
索引第二八册	史傳部(上)	大谷大學	大正藏第四九、五〇册
索引第二九册	史傳部(下)	龍谷大學	大正藏五一、五二册
索引第三〇册	事彙部外教部	高野山大學	大正藏第五三、五四册
索引第三一册	目錄部	立正大學	大正藏第五五册
丙、日本撰述部			

索引第三二册	續經疏部(一)	立正大學	大正藏第五六、五七册
索引第三三册	續經疏部(二上)	高野山大學	大正藏第五八、五九册
索引第三四册	續經疏部(二下)	高野山大學	大正藏第六〇、六一册
索引第三五册	續律疏部	駒澤大學	大正藏第六二册
索引第三六册	續論疏部(一)	大谷大學	大正藏第六三~六五册
索引第三七册	續論疏部(二上)	龍谷大學	大正藏第六五、六六册
索引第三八册	續論疏部(二下)	龍谷大學	大正藏第六六~六八册
索引第三九册	續論疏部(三)	龍谷大學	大正藏第六八~七〇册
索引第四〇册	續諸宗部(一)	立正大學	大正藏第七〇、七一册
索引第四一册	續諸宗部(二)	大谷大學	大正藏第七二~七四册
索引第四二册	續諸宗部(三上)	大正大學	大正藏第七四~七七册
索引第四三册	續諸宗部(三下)	高野山大學	大正藏第七七册
索引第四四册	續諸宗部(四)	高野山大學	大正藏第七八、七九册
索引第四五册	續諸宗部(五)	駒澤大學	大正藏第八〇~八二册
索引第四六册	續諸宗部(六)	大谷大學	大正藏第八三、八四册
索引第四七册	悉曇部	大正大學	大正藏第八四、八五册
索引第四八册	古逸部、疑似部	駒澤大學	大正藏第八五册

本索引之最大特色為站在最新的研究成果，以梵文、巴利文等音譯，固有名詞為中心，盡量地附註羅馬字拼音的原文。

『大藏經索引』用途之大，吾人得由五十種分類項目窺見一斑，於此不但可見佛法大海之廣闊無邊，且能證明佛法之多面性格，其內容有人文科學、社會科學、自然科學，應有盡有。以前吾人研究佛學總有望洋興嘆，不知所措之感，現在有了這部索引，任何問題都可迎刃而解，吾人可隨意查閱自己所欲了解之事項。於此不但可查出該用語在大藏經中的所在（頁數），亦可比照各宗派對該問題之看法。不像已往想查尋一個問題往往得花費許多時間，仍無法解決問題，至於想比較研究那就更困難了。例如：有關「業」與「輪迴」之問題來說，可將原始佛教，部派佛教、大乘佛教中較代表性之經論，如：阿含經、俱舍論、成業論、中觀論等之有關「業」與「輪迴」之記載，依索引的指示抄錄出來，然後加以研究原義以及發展的過程。這豈不是輕而易舉之事。在未有索引以前吾人必須讀破整部經典，方能洞悉該問題之所在，而且仍無法收集完整的資料。

又例如吾人想知道佛教對生理衛生的看法，對國家、社會的看法，則可隨便找一本索

引，查閱有關這些問題之所在，然後找某一部經論研讀。這在以前是做夢也想不到的事，由此可知這部索引之存在價值是何等地珍貴了。

總之，研究佛學『法寶總目錄』與『大藏經索引』為學者不可缺的重要工具書。

大藏經索引  
法寶總目錄  
合編  
六十二  
二  
反

## 收 錄 典 籍 解 題

本書は、大正新脩大藏經第85卷に収録される、次に掲げる古逸部および疑似部諸經典の索引である。

經典番號	經典名(卷數)	撰者	
2732	梁朝傅大士頌金剛經(一卷)		2761 勝鬘經記(一卷)
2733	御注金剛般若波羅蜜經直演(二卷)		2762 勝鬘經疏(一卷) 昭法師
		唐 道氈	2763 挾注勝鬘經(一卷)
2734	金剛瑛卷上(一卷)	唐 寶達	2764A 涅槃經義記(一卷)
2735	金剛般若經旨贊(二卷)	唐 曇曠	B 大涅槃經義記卷第四(一卷)
2736	金剛般若經依天親菩薩論贊略釋秦本義 記卷上(一卷)	唐 知恩	2765 涅槃經疏(一卷)
2737	金剛經疏(一卷)		2766 藥師經疏(一卷)
2738	金剛經疏(一卷)		2767 藥師經疏(一卷)
2739	金剛般若經挾註(一卷)		2768 維摩義記(一卷)
2740	金剛般若義記(一卷)		2769 維摩經義記卷第四(一卷)
2741	金剛般若經疏		2770 維摩經疏(一卷)
2742	金剛般若波羅蜜經傳外傳卷下(一卷)		2771 維摩經疏(一卷)
2743	持誦金剛經靈驗功德記(一卷)		2772 維摩經疏卷第三・第六(二卷)
2744	仁王般若實相論卷第二(一卷)		2773 維摩經抄(一卷)
2745	仁王經疏(一卷)		2774 維摩經疏(一卷)
2746	般若波羅蜜多心經還源述(一卷)		2775 維摩疏釋前小序抄(一卷)
2747	挾註波羅蜜多心經(一卷)		2776 釋肇序(一卷) 唐 體請
2748	法華義記卷第三(一卷)		2777 淨名經集解關中疏(二卷) 唐 道液
2749	法華經疏(一卷)		2778 淨名經關中釋抄(二卷) 唐 道液
2750	法華經疏(一卷)		2779 佛說楞伽經禪門悉談章(一卷)
2751	法華經疏(一卷)		2780 溫室經疏(一卷) 唐 惠淨
2752	法華問答(一卷)		2781 孟蘭盆經讚述(一卷) 唐 慧淨
2753	華嚴經章(一卷)		2782 大乘稻芊經隨聽疏(一卷) 唐 法成
2754	華嚴略疏卷第三(一卷)		2783 大乘稻芊經隨聽疏決(一卷)
2755	華嚴經疏(一卷)		2784 大乘四法經釋抄(一卷)
2756	華嚴經義記第一(一卷)	後魏 慧光	2785 大乘四法經論廣釋開決記(一卷)
2757	華嚴經疏第三(一卷)	新羅 元曉	2786 天請問經疏(一卷)
2758	十地義記卷第一(一卷)		2787 四分戒本疏卷第一・第二・第三(三卷)
2759	無量經義記卷下(一卷)		2788 律戒本疏(一卷)
2760	無量壽觀經義記(一卷)		2789 律戒本疏(一卷)
			2790 律雜抄(一卷)

- 2791 宗四分比丘隨門要略行儀 (一卷)
- 2792 毘尼心 (一卷)
- 2793 三部律抄 (一卷)
- 2794 律抄 (一卷)
- 2795 四部律并論要用抄 (一卷)
- 2796 律抄第三卷手決 (一卷)
- 2797 梵網經述記卷等一 (一卷)
- 2798 本業要略經疏 (一卷)
- 2799 十地論義疏卷第一·第三 (二卷)  
北周 法上
- 2800 廣百論疏卷第一 (一卷) 唐 文軌
- 2801 瑜伽師地論分門記 (六卷) 唐 法成
- 2802 瑜伽論手記 (四卷) 唐 法成
- 2803 地持義記卷第四 (一卷)
- 2804 唯識三十論要釋 (一卷)
- 2805 攝大乘論疏卷第五·第七 (二卷)
- 2806 攝大乘論抄 (一卷)
- 2807 攝大乘論章卷第一 (一卷)
- 2808 攝論章卷第一 (一卷)
- 2809 攝大乘論章卷第四 (一卷)
- 2810 大乘百法明門論開宗義記 (一卷)  
唐 曇曠
- 2811 大乘百法明門論開宗義記序釋 (一卷)  
唐 曇曠
- 2812 大乘百法明門論開宗義決 (一卷)  
唐 曇曠
- 2813 大乘起信論略述 (二卷) 唐 曇曠
- 2814 大乘起信論廣釋卷第三·四·五 (三卷)  
唐 曇曠
- 2815 起信論註 (一卷)
- 2816 因緣心釋論開決記 (一卷)
- 2817 大乘經纂要義 (一卷)
- 2818 大乘二十二問本 (一卷)
- 2819 諸經要抄 (一卷)
- 2820 菩薩藏修道來經抄卷第十二 (一卷)
- 2821 諸經要略文 (一卷)
- 2822 大乘要語 (一卷)
- 2823 大乘入道次第開決 (一卷) 唐 曇曠
- 2824 天台分門圖 (一卷)
- 2825 真言要決卷第一·第三 (二卷)
- 2826 略諸經論念佛法門往生淨土集卷上 (一卷)  
唐 慧日
- 2827 淨土五會念佛誦經觀行儀卷中·下 (二卷)  
唐 法照
- 2828 大乘淨土讚 (一卷)
- 2829 持齋念佛懺悔禮文 (一卷)
- 2830A 道安法師念佛讚 (一卷)  
B 道安法師念佛讚文 (一卷)
- 2831 無心論 (一卷)
- 2832 南天竺國菩提達摩禪師觀門 (一卷)
- 2833 觀心論 (一卷)
- 2834 大乘無生方便門 (一卷)
- 2835 大乘開心顯性頓悟真宗論 (一卷)  
唐 慧光
- 2836 大乘北宗論 (一卷)
- 2837 楞伽師資記 (一卷) 唐 淨覺
- 2838 傳法寶紀 (一卷) 唐 杜朮
- 2839 讚禪門詩 (一卷)
- 2840 三界圖 (一卷)
- 2841 大佛略懺 (一卷)
- 2842 印沙佛文 (一卷)
- 2843 大悲啓請 (一卷)
- 2844 文殊師利菩薩無相十禮 (一卷)
- 2845 押座文類 (一卷)
- 2846 祈願文 (一卷)
- 2847 祈願文 (一卷)
- 2848 迴向文 (一卷)
- 2849 大乘四齋日 (一卷)
- 2850 地藏菩薩十齋日 (一卷)
- 2851 和菩薩戒文 (一卷)
- 2852 入布薩堂說偈文等 (一卷)
- 2853 布薩文等 (一卷)
- 2854 禮懺文 (一卷)
- 2855 禮懺文 (一卷)
- 2856 禮懺文 (一卷)
- 2857 索法號義習誦誦文 (一卷)

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 2858 大目乾連冥間救母變文并圖 (一卷) | 2862 大蕃沙洲釋門教法和尚洪習修功德記 |
| 2859 惠遠外傳 (一卷)         | (一卷)                  |
| 2860 府君存惠傳 (一卷)        | 2863 王梵志詩集 (一卷)       |
| 2861 泉州千佛新著諸祖師頌 (一卷)   | 2864 進旨 (一卷)          |

(本書所收の疑似部諸經典は、ここに掲げるのを省略し、後の解題中に提示した。)

古逸部、疑似部は、共に今世紀初頭、中國西邊敦煌の千佛洞より發掘された厩大な數にのぼる古寫本(敦煌文獻)中、未だ曾て世に傳えられなかつた佛典、及び古い經錄等にその名を存しながら、その後傳えられなかつた古逸の佛典と、中國歴代の經錄に偽經とされたもの、或いは佛典として疑似とみなすべきものを集録したものである。特に古逸部、疑似部が藏經に加えられたのは、大正5年(1916)以來、矢吹慶輝氏がイギリス大英博物館所藏のスタイン蒐集敦煌文獻の調査研究に従事され、藏經未傳の佛典の探索に努められた結果、約200點、6000餘葉にのぼる寫眞撮影の許諾を得、財團法人啓明會の補助を得てわが國に將來されたことによるものであり、この意味から矢吹氏の勞は甚大といわなければならない。矢吹氏は、その寫眞を玻璃版に複製し、昭和5年(1930)10月、『鳴沙餘韻』と題して公刊され、こうして藏經未收の古佛典の内容が明らかにされた。藏經第85卷の古逸部、疑似部の刊行は、矢吹氏の『鳴沙餘韻』が公にされてから2年後にあたる昭和7年(1932)6月のことであり、矢吹氏の將來されたイギリス大英博物館所藏のスタイン蒐集敦煌文獻中の古佛典を、フランス國民圖書館所藏のペリオ蒐集敦煌文獻、及びその他の敦煌文獻等と對校して收篇されたものである。この意味からして、古逸部、疑似部の増補は、大正新脩大藏經の秀れた學術的價値を、更に一段とたかめたものとして高く評價されている。

なお矢吹氏は、先に公刊した『鳴沙餘韻』の解説を、昭和8年(1933)4月、『鳴沙餘韻解説』と題して出版された。従つてこの解説の中には、古逸部、疑似部に收篇された多くの古佛典が解説されており、この書物はそのまま第85卷古逸部、疑似部の解説書であるといつても過言ではない。本書と共に参照されることを望むものである。

藏經第85卷の古逸部は、No. 2732よりNo. 2864までの133點、疑似部は、No. 2865よりNo. 2920までの56點が含まれるが、古逸部はその内容によつて更に次のような4種に大別することができる。

- [A] 經疏類 (No. 2732~No. 2786) 55點
- [B] 律疏類 (No. 2787~No. 2798) 12點
- [C] 論疏類 (No. 2799~No. 2816) 18點
- [D] 史傳禮讚雜類 (No. 2817~No. 2864) 48點

これは、矢吹氏が『鳴沙餘韻解説』の正篇を5部に分ける内の經部、律部、論部、史傳禮讚雜部の4部に相當し、今一つ矢吹氏が雜經擬偽とするものが疑似部であつて、藏經第85卷ではこれを別立しているのである。

#### [A] 經疏類

(1) 金剛般若經に関するもの；No. 2732 梁朝傅大士頌金剛經は、羅什譯金剛般若波羅蜜經32分の各分毎に、「彌勒頌曰」とする5言8句の偈頌を付したもので、傅大士は彌勒の分身とみられている。No. 2733 御注金剛般若波羅蜜經宣演は、玄宗朝の學僧道氈による玄宗皇帝の御註金剛經の疏釋であり、No. 2734金

剛啖卷上は、實達による道飢の宣演の註釋である。No. 2735 金剛般若經旨贊は、曇曠による羅什譯の註釋であり、No. 2736 金剛般若經依天親菩薩論贊略釋秦本義記卷上は、天親菩薩の金剛經論に依り、知恩が羅什譯を略釋したものである。No. 2737, No. 2738 の金剛經疏は、共に羅什譯の註疏殘卷であり、No. 2739 金剛般若經挾注は、羅什譯の本文を雙行の割註で註解したものである。No. 2740 金剛般若義記は菩提流支譯の註釋である點に特色があり、No. 2741 金剛般若經疏は、道飢の宣演であつて、No. 2733 の異本である。No. 2742 金剛般若波羅蜜經傳外傳卷下は、尾題によるものであるが系統不明、No. 2743 持誦金剛經靈驗功德記は、後晋高祖の天復8年(943)に成つた金剛經持誦の靈驗功德を記したものである。

(2) 仁王般若經に關するもの；No. 2744 仁王般若實相論卷第二は、羅什譯の散華品第6 中途より囑累品第8 までの疏釋であり、No. 2745 仁王經疏は、僅かに經題と首文の解釋が存するのみであるが、隋の開皇14年(594)の抄寫である點で重視されている。

(3) 般若波羅蜜多心經に關するもの；No. 2746 般若波羅蜜多心經還源述は、玄奘譯般若心經の疏釋であり、No. 2747 挾註般若波羅蜜多心經も、同じく玄奘譯の本文に雙行の割註を加えたものである。

(4) 法華經に關するもの；No. 2748 法華義記卷第三は、北魏の正始5年(508)に釋道周が集めて寫したもので、道周の人爲は不明であるが、北魏の法華疏として重視されている。No. 2749 法華經疏は、羅什譯の壽量品長行後半より常不經品前半の註釋であり、No. 2750とNo. 2751の法華經疏も、同じく羅什譯の註釋殘卷である。No. 2752 法華問答は、前後103問答あり、前45問答は法華經の分品順序に従い、後58問答は經文の法數要句についてのものである。

(5) 華嚴經に關するもの；No. 2753 華嚴經章は、覺賢譯六十華嚴全34品の各品について大要を略述したもので、第3 如來名號品中途より第34 入法界品までがある。No. 2754 華嚴略疏卷第三は、同じく六十華嚴の第22 地品の註釋の一卷であり、No. 2755 華嚴經疏は實叉難陀譯八十華嚴の註釋2種と、世親造菩提流支等譯十地經論の註釋からなる3種の殘卷である。No. 2756 華嚴經義記卷第一は、北魏の慧光による六十華嚴の註釋であり、No. 2757 華嚴經疏卷第三は、新羅の元曉による六十華嚴の註釋の各一部である。No. 2758 十地義記卷第一は、十地經論中の十地經序分に相當する部分の解釋である。

(6) 淨土經典に關するもの；No. 2759 無量壽經義記卷下は、佛說無量壽經の註釋の一部、No. 2760 無量壽觀經義記は、佛說觀無量壽佛經の註釋であるが、後者は隋の慧遠の觀無量壽經疏と同一である。

(7) 勝鬘經に關するもの；No. 2761 勝鬘義記は、北魏の正始元年(504)の筆寫になる最古の勝鬘經の註釋であり、No. 2762 勝鬘經疏は、昭法師の筆寫で、その年代の延昌4年を高昌の年號とすれば564年、北魏の年號とすれば515年というように、先の勝鬘義記に次ぐ古いものである。No. 2763 挾註勝鬘經は、勝鬘經の各語句に雙行の割註を加えたものである。

(8) 涅槃經に關するもの；No. 2764A 涅槃經義記は、淨影慧遠の涅槃經義記10卷の斷篇であり、B 大涅槃經義記卷第四は、尾題によるものであるが、兩者は別人の手になるものである。特にBは、西魏の大統5年(539)の筆寫で、六朝未傳の古逸疏として重視される。No. 2765 涅槃經疏は、首尾破損の失題斷篇で、中に橋陳如品の品目がある。

(9) 藥師經に關するもの；No. 2766 藥師經疏は、首尾破損した藥師本願經の註釋殘卷であるが、引用經文は達摩笈多譯、玄奘譯のいずれとも符合しない箇所がある。No. 2767 藥師經疏は、唐の慧觀が高宗の永淳(682)の頃に製した達摩笈多譯藥師如來本願經の隨文解釋であり、笈多譯の註釋としては稀觀のものとしてされている。

(10) 維摩經に關するもの；No. 2768 維摩義記は、羅什譯維摩詰所說經の弟子品第3 中途より卷末に及ぶ長篇の疏で、北魏の景明元年（500）の筆寫になり、僧肇の註維摩に次いで古いものである。No. 2769 維摩經義記卷第四も、同じく羅什譯の佛道品第8 中途より卷末に及ぶ註釋で、西魏の大統5年（539）の筆寫になる六朝の古逸疏として、前者と共に重視されている。No. 2770 維摩經疏とNo. 2771 維摩經疏とは、共に首尾を缺く殘卷であるが、前者は淨影慧遠の維摩義記卷1の後部に相當し、後者は羅什譯の問疾品第5の註釋である。No. 2772 維摩經疏卷第三、第六の2卷は、卷第3が弟子品第3の、卷第6が香積佛品第10から卷末囑累品第14までの註釋である。No. 2773 維摩經抄は、尾題による名であるが、羅什譯の主要な經文を引きつつ述曰として註釋を加えたもので、卷第1佛國品第1より卷第3見阿閼佛品第12の首部までがある。No. 2774 維摩經疏は、首尾破損の殘卷で、羅什譯の方便品第2の前半の註釋である。No. 2775 維摩疏釋前小序抄は、道液による淨名經集解關中疏の序文を、教興次第と述釋所以との2段に分けて注解したものであり、末尾には No. 2776に釋肇序の名で掲げられる僧肇の註維摩の序を釋した釋肇斷序抄義の首部斷篇を付している。No. 2776 釋肇序は、首部破爛の失題斷篇であるが、上述の僧肇の註維摩序の釋文であり、No. 2775の小序抄に付せられた釋肇斷序抄義の後半部分に當る。このNo. 2775の小序抄とNo. 2776の釋肇序の記載からして、資聖寺の道液が上元元年（760）まず淨名經集解關中疏2卷（或いは4卷）を製し、永泰元年（765）更に之を修訂したが、偶々當時崇福寺體請が資聖寺にあつてこれを聽講し、永泰2年（766）には道液の經序に、更に大歷2年（767）には僧肇の經序に夫々註釋を加えたことが知られ、前者が維摩疏釋前小序抄、後者が釋肇斷序抄義と名づけられたことが知られる。かくしてNo. 2777は、資聖寺の道液が製したという上下の2卷からなる淨名經集解關中疏であり、No. 2778淨名經關中釋抄2卷は、同じく道液の撰集になり、別名淨名經關中釋批といわれるように、天台の維摩經玄疏6卷を中心に古來の維摩經注釋書を拔萃批釋したもので、先の淨名經集解關中疏からして大歷（766—779）時代の撰述とみられている。

(11) その他の經に關するもの

①楞伽經に關するもの；No. 2779 佛說楞伽經禪門悉談章は、卷首の序文によれば、禪宗初祖菩提達摩が求那跋陀羅譯の4卷楞伽經を重視したとする説を背景として、嵩山會善寺沙門定慧なるものが翻出したとするが、勿論偽作であつて、楞伽經の教説をとり入れつつ禪門の立場から修道の用心を8節の詩にうたいあげたものである。

②溫室經に關するもの；No. 2780 溫室經疏は、尾題奥付に釋惠淨撰とあり、撰者惠淨は續高僧傳卷3に詳傳のある唐京師紀國寺僧慧淨（578—645）をさし、傳中にも溫室經の註釋のあつたことを傳えている。經曰として經文を引き、通曰としてそれを釋したものである。

③孟蘭盆經に關するもの；No. 2781 孟蘭盆經贊述は、同じく紀國寺僧慧淨の撰述であることが續高僧傳卷3に記載されており、偽作とされる佛說孟蘭盆經の本文を經曰として引き、述曰として註釋したものである。

④大乘稻芊經に關するもの；No. 2782 大乘稻芊經隨聽疏は、大乘稻芊經隨聽手鏡記ともいい、敦煌で活躍した曇曠の門人蕃僧法成の手になり、十二因緣順逆の理を説いた大乘稻芊經を五門分別によつて註釋したものである。またNo. 2783 大乘稻芊經隨聽疏決は、この法成による隨聽疏の末註であつて、隨聽疏五門分別の第1立所宗に外宗16異論を挙げる内、最初の3論を略説したものである。

⑤大乘四法經に關するもの；大乘四法經は、藏經卷17に唐の地婆訶羅譯2種と實叉難陀譯1種の3本が收められ、更に地婆訶羅譯の註釋であるNo. 1535 大乘四法經釋が卷26に收められているが、No. 2784

大乘四法經釋抄は、その前半がこの大乘四法經釋の末註、後半が No. 2785 大乘四法經論廣釋開決記の末註である。また No. 2785 大乘四法經論廣釋開決記は、地婆訶羅譯の註釋であり、No. 1535 大乘四法經釋とは元來一本であつたものが、題名を異にして別行されたとみられている。

⑩天請問經に關するもの；No. 2786 天請問經疏は、藏經卷15所收玄奘譯の天請問經の本文を經曰として引き、それに述曰として註釋したものである。

#### 〔B〕律疏類

(1) 四分律を中心としたもの；No. 2787 四分戒本疏卷第一・第二・第三の3卷は、藏經卷22所收後秦の佛陀耶舍譯四分律比丘戒本を註釋したもので、法蘊の四分律疏における三門分別に依つている。撰者について卷2卷3の初めに沙門慧述とあるが、慧の人爲については不明である。No. 2788とNo. 2789の律戒本疏は、共に失題殘卷の比丘戒本の註釋であるが、前者には西魏の大統7年(541)後者には北周の保定元年(561)の識語がある。No. 2790律雜抄は、首題に「律一卷雜抄、律一卷雜抄、律策一卷」とあり、律に關する問答24番からなつている。No. 2791 宗四分比丘隨門要略行儀は、尾題によるものであるが、四分律に基いてその行儀作法の要略を示したものである。No. 2792 毘尼心は、戒律の要項8種を擧げて詳説したものであり、No. 2793 三部律抄は、第3品の中途より卷末第16品までを有し、僧祇・十誦・四分の3部の戒律の本文を抄出し、その會同を明らかにしたものである。No. 2794 律抄は、戒律に關する問答で、首部を缺くも、「律疏壹卷」の尾題があり、本文中に「就三部、僧祇十誦四分明其受戒」とあることから、No. 2793 三部律抄と密接な關係にあるとみられる。以上の三部に五分を加えた四部律によつて、戒律用語を對照批釋したものが No. 2795 四部律并論要用抄で、全卷17篇からなる。No. 2796 律抄第三卷手決は、尾題による名で四分比丘戒本の四波羅夷中、第2盜戒以下の註釋である。

(2) その他のもの；No. 2797 梵網經述記卷第一は、藏經卷24所收姚秦の鳩摩羅什譯梵網經の註釋で、尾題によつてその名が知られたものであるが、梵網戒本の十重禁戒の第1殺生戒の註釋部分である。No. 2798 本業瓔珞經疏は、首尾を缺く失題殘卷で、藏經卷24所收姚秦の竺佛念譯菩薩瓔珞本業經の註釋であり、本經8品中集衆品第1中途より學觀品第3までの疏文を存す。

#### 〔C〕論疏類

(1) 十地經論に關するもの；No. 2799 十地論義疏卷第一・第三は、北周の法上による世親の十地經論に對する義釋の卷1、卷3部分である。

(2) 廣百論釋論に關するもの；No. 2800 廣百論疏卷第一は、提婆の廣百論本に護法が釋した廣百論釋論を、唐代の文軌が註釋したものの内、卷1破常品を釋した部分であつて、神龍3年(707)の筆寫になり、廣百論の疏としては稀觀のものとして重視される。

(3) 瑜伽師地論に關するもの；No. 2801 瑜伽師地論開釋分門記は、彌勒説とされる瑜伽師地論の本文を分科したもので、その内の6卷であり、No. 2802 瑜伽論手記は、瑜伽師地論の本文を簡潔に解釋したもので、卷31から卷34までの4卷がある。これらは共に蕃僧法成が講述し、それを門人が手記したものである。また No. 2803 地持義記卷第四は、瑜伽師地論の菩薩地、すなわち卷35より卷50に相當する部分を抄譯した菩薩地持經10卷を、更に註釋したものの一部である。

(4) 唯識三十論に關するもの；No. 2804 唯識三十論要釋は、世親造玄奘譯の唯識三十論頌の要約注解で、序文の構成から曇曠のものともみられ、唐代唯一の註疏として重視される。

(5) 攝大乘論に関するもの；No. 2805 攝大乘論疏卷第五・第七の2巻は、巻七の奥題によつて攝大乘論義記ともいわれ、眞諦譯の攝大乘論釋の文を引いて註釋したものであり、No. 2806 攝大乘論抄も、眞諦譯攝大乘論釋卷一の要句を摘出解釋したものである。No. 2807 攝大乘論章卷第一は擬題であるが、No. 2808 攝論章卷第一は尾題によるもので、仁壽元年(601)筆寫の題記があり、共に眞諦譯攝大乘論釋の要目解釋である。No. 2809 攝大乘義章卷第四は、斷結義と三性義を同じく眞諦譯攝大乘論釋の立場から解釋したもので、これらはいずれも攝論宗の立場を傳えた貴重な資料とされている。

(6) 大乘百法明門論に関するもの；No. 2810 大乘百法明門論開宗義記は、唐代の曇曠による玄奘譯大乘百法明門論の註釋で、五門分別によつて唯識百法の大意を説き、No. 2811 大乘百法明門論開宗義記序釋は、その序文を曇曠が釋したもの、また No. 2812 は大乘百法明門論開宗義決は、No. 2810 の開宗義記の撰者曇曠が、自ら著わした註釋を重釋してその意義を闡明にしたものである。

(7) 大乘起信論に関するもの；No. 2813 大乘起信論略述は、曇曠による大乘起信論の註釋で、三門分別により本文を論、註釋を述曰として釋したものであり、No. 2814 大乘起信論廣釋卷第三・第四・第五の3巻は、同じく曇曠による大乘起信論の註釋で、本文を論、註釋を釋曰とする。No. 2813 の略述が No. 2814 の廣釋製作後の撰述であることは、略述に付された澄漪の序に明らかである。No. 2815 起信論註は、首尾を缺く失題斷篇であるが、No. 2813 の略述の要文を擧げてこれに註釋を加えているところから、曇曠の補註ともみられ、矢吹氏はこれに起信論略述補註の擬題を與えている。

(8) 因緣心論釋に関するもの；No. 2816 因緣心釋論開決記は、龍猛すなわち龍樹造とされる因緣心論頌とその釋論である因緣心論釋の兩書の内、後者に對する隨文解釋で、その題名から曇曠の作ではないかとみられている。

#### [D] 史傳禮讚雜類

(1) 要義・要抄に関するもの；No. 2817 大乘經纂要義は、敦煌の吐蕃支配期の壬寅年(822)に書寫された三身・三寶の尊信と十惡十善の斷修を説いたものであり、No. 2818 大乘二十二問本は、大乘教義に関する吐蕃王チソン・デツェンと曇曠との問答を記したものである。No. 2819 諸經要抄は、諸經の要文を抄出集録したものであり、No. 2820 菩薩藏修道來經抄卷第十二は、菩薩修道の指針とすべきものを諸經中より抄出集記したものの1巻である。No. 2821 諸經要略文は、No. 2819 諸經要抄と同様、諸經の要文を抄出集録した斷簡であり、No. 2822 大乘要語は、禪語を用いつつ八識説の立場から菩提佛性の義を説いたものである。No. 2823 大乘入道次第開決は、禪の法相宗第3祖智周の大乘入道次第1巻を曇曠が註釋したものである。No. 2824 天台分門圖は、天台の維摩經玄疏を中心として、古來の維摩經註釋書を抜粹批釋した No. 2778 淨名經關中釋抄について、その網格となる分門項目を抄出して表にしたものであり、No. 2825 眞言要決第一・第三の2巻は、諸經中の要言を摘出しつつ佛教の要義を闡明しようとしたものである。

#### (2) 宗義・宗要に関するもの

① 淨土教に関するもの；No. 2826 略諸經論念佛法門往生淨土集卷上は、唐の慈愍三藏慧日が諸經論を援引しつつ、淨土往生の思想を主張した3巻の内の上巻で、禪宗の主張に對する破邪顯正をなしており、No. 2827 淨土五會念佛誦經觀行儀卷中・卷下の2巻は、唐の法照による淨土の五會念佛の行儀作法を述べた3巻の内の後2巻で、特に五會念佛に唱和すべき種々の讚文を示している。No. 2828 大乘淨土讚一本は、淨土を禮讚しつつ禪思想をも含んだ短篇であり、No. 2829 持齋念佛懺悔禮文は、懺悔・持齋の